

## 図書館で発見する 「自分史を書くときに、たくさん調べたいことがあります」——丹治

**丹治** 新聞の縮刷版、『文芸年鑑』なども充実していると思いました。これは役に立ちそうです。ところで、わからないことや調べものについて気軽に相談できる“何でもお尋ねコーナー”のようなところはありませんか。

**早坂** それは、調査相談(レファレンス)コーナーでお受けします。利用者の方からは、本のある場所や探し方についてのご質問もありますし、専門的な文献を調べたいというご要望もあります。ご質問については答えだけでなく、調べ方も説明するようにしています。自分で調べる方法がわかると、テーマを深めることができますから。

**丹治** 私も自分史をまとめるときには、たくさん調べたいことがあります。

**早坂** たとえば、先ほどお話の出た『麦笛』の新聞記事を調べたいときには、パソコンで記事検索ができます。地元の河北新報でしたら、図書館から直接オンラインで新聞記事のデータベースにアクセスすることができます。これは全国的にもあまりないサービスだと思います。しかも無料です。

**庄司** 雑誌の記事もパソコンで探せるんですか。

**早坂** CD-ROM版の雑誌記事索引を館内の専用パソコンで利用することができます。学術的な雑誌であれば『雑誌記事索引』(国立国会図書館編集・発行)、女性誌や週刊誌などポピュラーな雑誌であれば『大宅壮一文庫雑誌記事索引』(大宅壮一文庫編著)で検索してください。映画監督などの人物名や「自主映画」といったキーワードで、記事のリストを探すこともできます。本になった目録もありますよ。

**庄司** 記事のリストを見てるだけでも、おもしろそうですね。

**丹治** でも、何か調べたいと思っても、忙しいときなどは図書館に来るのがちょっと大変です。インターネットで図書館に直接アクセスできると便利なのですが。

**早坂** 調査相談は電子メールでも受け付けています。どうぞご利用ください。(chousa@library.pref.miyagi.jp)

## 図書館で創造する 「図書館は文化を知り、創作したものを積み重ねていく場所」——早坂

**庄司** 私たちは映画監督やプロデューサーを交えてのシンポジウムを開いたりしていますが、アマチュアの私たちにとって、会場探しはけっこう大変なんです。図書館のミニシアター「青柳館(せいりゅうかん)」やコロシウム風の地形広場「ことばのうみ」はいろいろな催しに使いそうです。東京のものまねでない、宮城県ならではの映画塾やワークショップを、図書館で開催できたらステキだと思います。図書館にも県民の文化活動をもっともっとサポートしてほしいですね。

**丹治** 私たちの年代にとっては、図書館で新しい本をただながめているだけでも、「ああ、生きている」という感じがしますし、古い本において郷愁に浸ることもできます。それに、あれこれと自分のことを考えてみたいときに、ゆっくりと過ごせる場所ってあまりないですよ。本に囲まれている雰囲気がいいんです。これからも図書館はそういう場所であり続けてほしいと思います。

**早坂** 図書館は文化と出会う場所でもあり、自分の創作したものを積み重ねていく場所でもあると言えるのではないのでしょうか。今日はどうもありがとうございました。



### ◀みやぎ資料室(3F)

**丹治** 「私の参加している文芸同人誌『麦笛(むぎぶえ)』もあるんですね。ここで多くの人の手に触れてもらえるに幸せです」  
県内の方々の同人誌や個人出版の本も、できる限り収集するようにしています。



### ▲閉架書庫(4F)

**庄司** 「あ、「ゆきゆきて、神軍」だ。有名なドキュメンタリー映画なんです。この本には製作記録やシナリオも載っていて、ずっと読みたいと思っていました」  
閉架書庫の一般書は、申し込みがあれば搬送機でカウンターまで運ばれます。



### ▲音と映像のフロア(1F)

**庄司** 「ブースになっているのがすごくいいです。プライバシーが守られて、落ち着いて鑑賞できますね」  
土・日曜日は、ミニシアター「青柳館(せいりゅうかん)」(2F)で、映画の上映会やLDコンサートを開催しています。



### ▲閉架書庫(4F)

**丹治** 「今日は特別に閉架書庫に入れていただきましたが、伊達文庫(伊達家蔵書)、大槻文庫(国語学者・大槻文彦の蔵書)などの貴重な本が大切に保存されているんですね。しっかりと後世に伝えていただきたいと思います」  
大槻文彦は本館第8代館長(明治25年~)をつとめており、文彦が執筆した『言海』(日本初の近代的国語辞典)の自筆原稿なども保存されています。(一般の方は入室になれません)

### ▼子ども図書室(2F)

**庄司** 「私が子どもの頃に読んだ本もあるのかな。外国の絵本もあって、大人も楽しめそうです」  
人気の絵本、『ひとまねこざる(CURIOUS GEORGE)』や「げんきなマドレーヌ(MADELINE)」の原書(英語版)などもシリーズで揃っています。



### ▲展示室(2F)

**丹治** 「展示物はとても貴重なものばかりのように思います。本や出版の歴史が一目でわかりますね」  
■本と人の文化史を实物展示やシオラマ、ビデオで楽しく学べます。